

歴史は当たり前にあるものではなく、遺跡や遺物、文字で書かれた記録など、過去に生きた人々の痕跡、すなわち史料があつて初めて、歴史を知ることができると。だから私たちは史料を大切に守らなければならぬ。

では、そもそもなぜ、私たちは歴史を学ぶのか。戦争の歴史を学び同じ惨禍を二度と繰り返さない。災害の歴史を知り将来の防災や減災に生かす。このように、歴史からさまざまな教訓を引き出すことは、歴史を学ぶ目的としてよく語られる。また、先人の偉業を学び模範や励みにする、といった話もよく聞かれ



る。これらはいずれも、歴史の大切な役割の一つと言えるであらう。しかし、歴史を学ぶ目的は、こうした教訓や顕彰のためだけではない。

例えば今、私たちは男女共同参画を目指す社会に生きている。女性の社会参画が進むと、日本史上最も有名な夫婦ともいえる源頼朝(源は姓)と北条政子(北条は名字、姓は平)は同じ姓ではないことが知られる。政子は結婚後も源姓にはならなかった。

足利義政(足利は名字、姓は源)と日野富子(日野は名字、姓は藤原)もまたしかりで、

さかのぼれば、日本史の教科書で最初に登場する有名人は女王卑弥呼である。各地の古墳には男性だけでなく女性も埋葬されており、飛鳥・奈良時代には男性天皇とほぼ同数の女性天皇が在位したこと

も知られる。今とは異なる男のあり方が、かつてのわが変化の中で伝統を守るにせよ、歴史との対話を通して今の社会をよく知ること、私たちは考えを深め、よりよい決断を下せると信じる。

どうして歴史を学ぶのか

中で、結婚後の旧姓使用を希望する女性も増え、選択的夫婦別氏(名字・姓)制度を求める声が上がっている。

同じ家族が異なる名字を名乗るといふ、新たな制度を導入するのかがどうか。私たちは選択の時を迎えている。その時に、歴史を振り返ってみる

富子が源や足利となることはなかった。わが国で夫婦が同じ姓・名字を名乗ることを義務付けられたのは、1898(明治31)年に施行された明治民法以降である。それは、案外最近のこととも言えよう。

頼朝と政子が見られたのである。頼朝と政子が夫婦別姓であったから今もそうすべきだ」とか、「夫婦が同じ名字を名乗るのは明治民法以来の伝統なのだから今も守るべきだ」などというように、私たちが取るべき選択に対して、歴史が安易に解答を教えてく

頼朝と政子よりさらに前に

宇都宮大共同教育学部准教授、とちぎ史料ネット代表

るわけではない。しかし、これまでに学んだ歴史を今の社会と関連付けて捉え直してみると、社会は常に変化しており、その変化の過程を経て今があることを理解できる。例に挙げた夫婦別氏をめぐって、今、新たな制度の導入に踏み出すにせよ、

歴史を学ぶ目的は、歴史との対話を通して今を知ることにある。歴史は人々の思考を成熟させ、懐の深い豊かな社会を築く大きな力を持っている。